

Title	CTスキャナー製造業における企業間競争の分析
Sub Title	
Author	仲田吉儀(Nakata, Yoshigi) 古川公成
Publisher	慶應義塾大学大学院経営管理研究科
Publication year	1989
Jtitle	
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	修士学位論文. 1989年度経営学 第701号 複写許諾が必要
Genre	Thesis or Dissertation
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00001989-0701

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

CTスキャナー製造業における企業間競争の分析

本研究の目的は、CTスキャナー製造業において先発企業であったEMI社（イギリス）が辿った発展と衰退までの経緯と、後発企業である（株）東芝（日本）の参入から今日の繁栄までの企業活動をそれぞれ比較研究し、この企業間に生じた業績の格差をもたらした主たる原因を解明することにある。

本研究を進めるために、第1にEMI社と東芝両社におけるCTスキャナー開発の経緯、第2にその後の業界における製品展開、第3に生産技術の発展について調査した。また本研究では、医用電子機器事業において世界の売上高を持つアメリカのゼネラル・エレクトリック社（GE）の事業展開について詳しく調査し、同社がCTスキャナーの企業間競争にいかに関与を及ぼしたかについて分析を試みた。また同時に、顧客に関する情報も収集した。

情報収集に関しては、第1に国内メーカー4社を対象として訪問インタビューを行った。第2に、新聞、雑誌・書籍等の文献調査を行った。

得られた情報を分析する枠組みとしてアバナシーによるイノベーションのモデルと、エイベルによる事業定義に関するモデルを採用した。

本研究から分かったことは、第1に、CTスキャナーにおけるイノベーションのパターンは、概ねアバナシーの一般モデルに適合すると考えられること。第2に、1976年時点におけるEMI社の研究開発方針は、同社の衰退をもたらした原因の一つを形成していること。第3に、東芝の成功の原因は、GE社が1980年代に作り上げた医用電子機器事業における事業推進のパターンを自社の経営資源を活用し、国内市場を中心に展開したこと、また同時に生産行程の効率化、品質の向上によってコスト低減を図ったことであると考えられる。